



年間約100万人が訪れる深川市の情報発信基地・道の駅「ライスランドふかがわ」

米のまち深川小史

明治25(1892)年、北海道庁令により、現在の幌加内町などを含む雨竜川左岸一帯に雨竜郡深川村を設置。菊亭侯爵による農場開拓と屯田兵入植を中心に、開拓が進められました。開拓当初、全道的に畑作が奨励されましたが、米づくりに取り組む人も多く、深川でも明治25(1892)年に稲の栽培に成功。その後、明治29(1896)年には、水田試作が本格化し大正5(1916)年に石狩川の水を引く用水路が完成。各地区で水田が広がっていきました。一方、明治31(1898)年には空知太から旭川までの鉄道が開通。それと共に道路整備も進み、交通網も整っていきました。そのような中、明治35(1902)年には2級町村制が、その5年後には1級町村制が施行。大正7(1918)年には、深川町が誕生します。

戦後の復興を遂げる中、昭和38(1963)年には当時の深川町・一已村・納内村・音江村の4町村が合併。深川市が生まれました。さらに昭和45(1970)年には、隣接する多度志町と合併しました。街並み整備も進み、豊かな暮らしが広がる中、平成24(2012)年に深川市は、開村120年・市制施行50年を迎えました。そして今、先人たちのたゆまぬ努力により築き上げられてきた発展への礎を糧に、深川では、新しい活気を育む個性的なまちづくりを進めています。



2012深川市勢要覧

企画編集発行

深川市企画総務部企画課広報広聴係